

そう だい
総 題 「マルコによる福音書」

だいきゅう か ろんそう
第 9 課 エルサレム論争

よしむら しのみ
吉村 忍

いち あんそくにちご
1. 安息日午後

あんしょうせい く
【暗唱聖句】

また、立って祈るとき、だれかに対して何か恨みに思うことがあれば、赦してあげなさい。そうすれば、あなたがたの天の父も、あなたがたの過ちを赦してくださる。(マルコ 1 1: 2 5、新共同訳)

★今週は、エルサレムでのイエス・キリストと宗教指導者達との論争の内容から学んでまいりたいと思います。

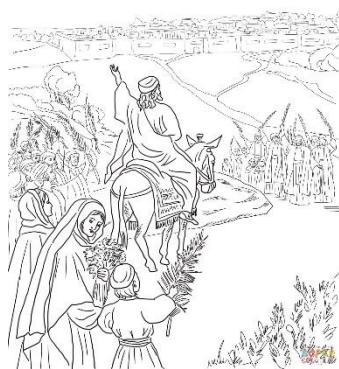
に にちようび がいせんにゆうじょう
2. 日曜日：凱旋入場

「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って。」(ゼカリヤ書 9: 9)

★預言者ゼカリヤは、イエスがお生まれになる500年前に上記の預言をしました。

「イエスは墮落した世に対するご自分の使命の最後の仕上げとなる犠牲に、人々の注意を引こうと望まれた。」(『希望への光』970(きゅうひやくななじっ) ページ、『各時代の希望』第63章)

イエスの凱旋(サタンとの戦いに勝ってエルサレムに帰ってくる)ことは、世の有名な征服者(将軍)達がしたようなものとは違っていました。イエス・キリストが十字架につけられたのは、エルサレム入場の5日後でした。



さん げつようび のろ き きよ しんでん
3. 月曜日：呪われた木と清められた神殿

イエスはその木に向かって、「今から後いつまでも、お前から実を食べる者がないように」と言われた。(マルコ 1 1: 1 4)

そして、人々に教^{ひとびと}えて言^{おし}われた。「こ^いう書^かいてあるではないか。『わた^{いえ}しの家^{くに}は、すべ^{ひと}ての国^{くに}の人^{ひと}の祈^{いの}りの家^{いえ}と呼^{よば}れるべきである。』ところが、あな^{ごうとう}た^すちはそれを強^{ごうとう}盗^すの巢^すにしてしまった。」(マルコ 1 1: 1 7)

★葉^はが茂^{しげ}っていて実^みのな^きらないい^きち^きじ^きく^きの木^きは、ユ^{こく}ダ^くヤ^く国民^くをあら^{かれ}わ^{じぶ}していま^{ぶん}しました。彼^{かれ}ら^{じぶ}は、自^{ぶん}分^{ぶん}達^だは他^{ほか}の国民^{こく}と^くは違^{ちが}うこ^ほとを誇^{かみ}り^さと^おしていま^おし^しましたが、神^{かみ}様^{さま}の教^{おし}えに忠^{ちゅう}実^{じつ}ではな^きく、偽^ぎ善^{ぜん}的^{てき}な行^{こう}為^いを繰^くり返^{かえ}し、謙^{けん}遜^{そん}な姿^{すがた}から^とはほ^あど遠^{かい}く、愛^{あい}やあ^かわれ^かみ^かに欠^かけていま^かしました。

彼^{かれ}ら^{すがた}の姿^{すがた}は、外^{がい}見^{けん}だけ^りは立^り派^っに見^みえるい^きち^きじ^きく^きの木^きのよう^きでした。祭^{さい}司^しと役^{やく}人^{にん}達^だは、神^{しん}殿^{でん}を商^{しょう}売^{ばい}の場^ば所^{しょ}としていま^かし^ころ^{ころ}は、※^り1 利^り己^こ心^{しん}と※^{とん}2 貪^{とん}欲^{よく}心^{しん}で汚^{けが}れていま^かし^ころ^{ころ}は、鋭^{するど}い眼^めで汚^{けが}され^{しん}た神^{しん}殿^{でん}を^{らん}ご^{けん}覧^いにな^{さい}ったイ^しエ^しス^{たち}は、権^{けん}威^いをも^てて祭^{さい}司^し達^だと役^{やく}人^{にん}達^だを神^{しん}殿^{でん}から追^おい^だし^{しん}で^き出^でし、神^{しん}殿^{でん}を清^{きよ}められ^わた^しし^ころ^{ころ}の神^{しん}殿^{でん}を今^{いま}、ど^{じょう}のよう^{たい}な状^{じょう}態^{たい}にな^かって^かい^かく^{にん}に^おもい^おし^おま^いす。

イ^わエ^たス^しは、私^{わたし}達^だが自^みら^みの罪^{つみ}を認^みめ^とて悔^くい改^{あら}め^たるこ^ねとを願^ねってお^られ^ます。

※^り1 利^り己^こ心^{しん}：自^じ分^{ぶん}が1番^{いちばん}と思^{おも}っているこ^こと

※^に2 貪^{とん}欲^{よく}心^{しん}：欲^{よく}張^ばりな^ここ^{ころ} (あれ^{じぶ}もこれ^も自^{じぶ}分^{ぶん}の物^{もの}にしたい^おという思^{おも}い)



4. 火曜日：何^{なん}の権^{けん}威^いで行^{こう}動^{どう}したのか

そ^かこ^れで、彼^{かれ}ら^わはイ^いエ^えス^いに、「分^わか^から^ない」と答^{こた}えた。す^いると、イ^いエ^えス^いは言^いわ^いれた。「それ^{なん}なら、何^{なん}の権^{けん}威^いでこ^いのよう^いなこ^いとをす^いるのか、わ^いた^いし^いも言^いうまい。」マルコ 1 1: 3 3

★宗^{しゅう}教^{きょう}指^し導^{どう}者^{しゃ}達^だは、イ^いエ^えス^いに「何^{なん}の権^{けん}威^いで、こ^いのよう^いなこ^いとをす^いているのか。だ^{なん}れ^{なん}が、そ^いうす^いる権^{けん}威^いを^い与^よったのか。」(マルコ 1 1: 2 8) と質^{しつ}問^{もん}しま^した。宗^{しゅう}教^{きょう}指^し導^{どう}者^{しゃ}達^だは真^{しん}理^りを求^{もと}めていた^いのではなく、イ^いエ^えス^いを※^わ3 罣^わにはめ^しよう^しとしていた^いのです。宗^{しゅう}教^{きょう}指^し導^{どう}者^{しゃ}達^だは、イ^いエ^えス^いが自^じ分^{ぶん}の権^{けん}威^いは神^{かみ}から授^さけられ^したと主^{しゅ}張^{ちやう}するも^きのと期^き待^{たい}していま^した。そ^して、そ^しのよう^しな主^{しゅ}張^{ちやう}を^したら、宗^{しゅう}教^{きょう}指^し導^{どう}者^{しゃ}達^だはそれ^ひを※^ひ4 否^ひ定^{てい}するつ^もり^でした。

イ^{しゅう}エ^{きょう}ス^{しゅう}は宗^{しゅう}教^{きょう}指^し導^{どう}者^{しゃ}達^だの質^{しつ}問^{もん}に^{たい}して、彼^{かれ}ら^わの※^わ3 罣^わを見^み抜^ぬいて、こ^いうお^いっ^しや^いいま^した。「では、一^{ひと}つ尋^{たず}ね^るから、そ^これに答^{こた}えな^{なん}さい。そ^いうし^いたら、何^{なん}の権^{けん}威^いでこ^いのよう^いなこ^いとをす^いるのか、あ^いな^いた^いち^いに言^いおう」(マルコ 1 1: 2 9)。イ^{しゅう}エ^{きょう}ス^{しゅう}の質^{しつ}問^{もん}に^{たい}して、宗^{しゅう}教^{きょう}指^し導^{どう}者^{しゃ}達^だは答^{こた}えるこ^いが^いでき^いず、「分^わか^かりま^{こた}せん」と答^{こた}えま^いした。

イ^けエ^{しゅう}ス^{きょう}は、決^けして宗^{しゅう}教^{きょう}指^し導^{どう}者^{しゃ}達^だに※^は5 恥^はをか^かせ^せよう^なとな^さった^のではあ^いりま^いせん。む^かしろ、彼^{かれ}ら^いに警^{けい}告^{こく}を^あた^つて、罪^{つみ}の悔^くい改^{あら}め^をを^あら^ため^をを^させ^たか^った^のです。

※^{さん}3 罣^わ：だ^まして困^{こま}って苦^{くる}しい立^{たち}場^ばに追^おい^やる

※4 否定する：間違いだと言うこと

※5 恥をかかせる：人の前で恥ずかしい思いをさせること

5. 水曜日：地上の義務と天上の結果

イエスは言われた。「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」彼らは、イエスの答えに驚き入った。(マルコ 12:17)



★イエスを^{※3}罾にかけようとした宗教指導者達に対して、イエスは「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」とおっしゃいました。「イエスは、彼らがローマの権力下に生活しているのだから、神に対する義務と矛盾しない限り(両立する時だけ)、ローマの求める支持を与えるべきであると宣言された。しかし、その国の律法に従順に従う一方で、いつでも神への忠誠を第一としなければならなかった」(『希望への光』987(きゅうひやくばちじゅうなな) ページ、『各時代の希望』第66巻)

6. 木曜日：最も重要な掟

イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」(マルコ 12:29~31)



★十戒の

第1条から第4条は、『心をつくして主なるあなたの神を愛せよ』という意味です。

第5条から第10条は、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』という意味です。

この2つの戒めは両方とも、愛を表しています。

神を1番に愛する同時に、隣人もみんな同じように愛することができるのである。

(『希望への光』990(きゅうひやくきゅうじゅうきゅう) ページ、『各時代の希望』第66章参照)

神様が私たちを様々な出来事や場面において、「神を愛し、隣人を愛する」ことの意味や喜び、祝福について学ばせてくださり、霊的成長を与えてくださることを感謝いたします。

7. 金曜日：さらなる研究

ホワイト夫人の文章を、わかりやすく書き直します。祈りのうちに心に留めたいと思います。

「人に奉仕しないクリスチャンは神の律法を守っていない。他の人を見ようとせずに自分のためだけに生きる者は、全てが見せかけだけで実のならないいちじくの木と同じである。彼らは礼拝を守っているが、悔い改めもしなければ、信仰もない。口では神の律法を大切にしているが、神さまのみ心に従わない。実のならないいちじくの木を憎むことの意味を教えている。」(『希望への光』977 (きゅうひゃくななじゅうなな) ページ、『各時代の希望』第 6 4 章 参照)。